

◆外電一束◆

南方諸國の暴風雨

十日、パルバイン港に大暴風襲来し

碇泊諸船は錨鎖を切られ押流される

等大混乱を來した船舶の難破及航行

杜絶等による損害莫大(サンチャゴ)

九日未明から襲來の暴風雨は翌日更に勢を進み各地に浸水其の非常な

損害を與へた(ブエノスアイレス)

十日來の大暴風雨でプラタ河は氾濫

し瓦斯會社發電所等は浸水の爲一時

電車運転不能となつた港内碇泊船の

錨鎖を切断されたもの夥しく英獨の

二船は坐済し危険に瀕してゐる又倉庫に浸水して貯藏の輸入商品は減

茶々々になつた此暴風雨損害は數千萬ペソに上る見込(モンテビデオ)

佛國・華府海軍條約

下院では百六對四百六十票で華府海軍條約を承認し上院は何等保留なし

日本の提議不許

五ヶ國協定の海軍條約に佛伊の批准を得たすに別に日英米等其の代の協約を結ばうとの日本の提議は米海軍に極めて冷かに迎へられた三國だけの協約は攻守同盟を結ぶに等しく

米國の來年度海軍

海軍省では來年度に主力艦十八隻巡洋艦十四隻潜水艇八十四隻を常備艦馬賊の一團満鮮國境を越へ朝鮮に侵入し日本警察を襲つた(北京)

葡萄大詩人死去

米國行伊太利移民

萬に達した(羅馬)

六日死去した(リスボア)

六月來米國行旅券請求移民數四十五

香港來報に依れば一團の士匪廣東九

而して之等種類はジャワから取寄せたものであるそこで自今世界產官二名を射殺し富豪乗客(支那人)九

糖の不足に際し伯國政府は亞國政府に射殺し富豪乗客(支那人)九

十名を捕虜として連れ去り多額の解放身代金を要求した同列車内に於ての掠奪額は五萬弗に上る(倫敦)

於て何れが最も伯國の國土に適應するかを研究する必要がある』云々

砂糖の世界的不足

砂糖が目下世界的供給不足に陥つてゐる事は争ひ得ざる事實である一九二三年一二四年度に於ける世界產額一千八萬八千十袋であつたが本年產額は極めて勢い例へば玖馬の如き本糖想は六億五百二十八萬六百キロ

年の生産量は三百萬噸を超へまいとされてゐるこれでは到底米國の消費を充たす事が出来ないそこで米國は本年に於て砂糖を臺灣、ジャワ、布哇から又少量を西印度諸島から供給を仰がねばならない

伯國に於ける產糖も亦非常に少量である上々に見積つてベルナンブコから三百萬袋出るのが關の山であらうアラゴアス產は五百袋を超へま

伯國に於ける產糖も亦非常に少量である上々に見積つてベルナンブコから三百萬袋出のが關の山であらうアラゴアス產は五百袋を超へま

府のなす如く、ジャワから糖分の多い良種の甘蔗を取寄せて、試験場に於て何れが最も伯國の國土に適應するかを研究する必要がある』云々

伯國產糖狀況

昨年と本年比較

聖市コンデ街五十三

電話セントラル五八一九

Rua Conde de Sarzedas, 53

Telephone Central, 5819

Rua B. de Itapetininga, 20 S. Paulo

Largo 7 de Setembro, 15 Santos

Tl. Central, 2008, Santos

セードロ、ベローバ買入度し委細

カザ東京

材木商

杉本芳之助

Rua B. de Itapetininga, 20 S. Paulo

上村萬作方

中島勘五郎

上村萬作方

伯刺西爾時報取次所

旅館成功館

古謝將義

サントス港

好機會

ノロエステ線土地賣却

位置

ノロエステ線バクリコトヴエロ、ルスサン

シライマシャード、メーロの各驛を土地内に有

し總面積五萬アルケーデ、メーロの各驛を土地内に有

脈地に到る低地三百米突より高地五百五十米突此地

は貴族院議員ロドバフ、ミランダ氏及び令公衆議院議員ルイズ・ミランダ兩氏の地にして地券確實正

確保證は一般有志家の證明する所です

地味最良肥沃にして珈琲、穀物類、養豚、牧畜に適

實地にて分割致します

低地高地の御希望に應じます

御便宜取計ふ可く當市より自動車道あり土

地割一區十アルケーレを最少限度として幾千アルケ

過過して將來マツトグロツン州の進化と共に農產物

の輸出に最も有望の地點です

地拂高低の差に依つて價格一定せず初年入植と同時

に三分の半金殘額二、三ヶ年拂御思考に應じます

將來の發展一般土木事務引受け居れば職權上全般の責任割

地拂ひます御照會被下れば早速詳細説明測量の地圖同

視察の際は當アラサツーパ駒にて事務所御訪問下さ

地割に山脈線變更する設計ありてアラサツーパ駒は本地内を

地内四方を通すれば御希望に依つて御照會被下れば早速詳

御照會被下れば早速詳

御照會被下れば早速詳

在伯同胞子女教育問題

東京本店 赤坂區溜池町廿三
支店 リオデジヤネイロ
支店 ベルナンブーコ

Fujisaki & Comp.

種各品本日

藤崎商會

サン・バウロ支店

Rua S. Bento No. 68-A
Tel. Cent. 2788-Caixa, 344
S. PAULO

日本貿易株式會社

リオ支店

Rua Candelária, 81
Caixa Postal, 1246
Rio de Janeiro

聖市出張所

Rua Quintino Bocayuva, 80
Caixa, 1714 Tel. Cent. 3449
São Paulo

聖州衛生局試驗奏効確證濟

天下の三大妙藥

錠劑 ANTI GRIPPEAS "MAURO"

感胃、耳の痛み、神經痛等諸症に特効保證、服薬後數分時にして
マレイタ、間歇熱、濕地熱等各種然病に用ひて全治百發百中、特にマ
リ亞に對しては學術的、迅速根治法又經濟的療法として推奨さる、全
者よりの奏効禮狀山の如し。

錠劑 ANTIPALUDICOS "MAURO"

貧血症及び貧血症に於ける強壯劑中の王なり、使用法は容易に効能は確實。
HEMATICOS "MAURO"

錠劑 DEPOSITARIOS GERAES: MAURO, ZICCIARDI & CIA.

Rua Victoria, No. 35 São Paulo

Vendem-se em todas as boas farmacias

▼ 日本書
賣藥一切
化粧品
小間物
反物雜貨
食料品
罐詰各種
新古袋

▼ 賣小卸強勉大▶

・サン・バウロ市ルアコンデ・デ・
サルゼーダス六十九番
電話セントラール六二三六番
中矢商店
K.NAKAYA
Rua C. de Sarzedas, 62 S. Paulo

日本近信

赤い國のお客様

仲好く手を握つて語らう

◇發起人はお歴々だし

◇警視廳では頭痛鉢巻

『赤い露西亞と仲好くしお互に胸襟を開いて語り度い』といふのが目的でヨツフエ氏が未だ熱海に静養して居た頃から

計画されて居た日露交渉會が急々六月二日(土曜日)午後五時から樂

東京電報、北米通信

地方長官異動

地方長官に左の如く異動があつた

任關東廳事務總長 川口彦治

任愛知縣知事 太田政弘

任和歌山縣知事 小原新三

日本に共産聯盟

共産主義者、社會主義者等の大機舉引續き行はれて居るが猪俣早稻田大

學教授、山川均兩名の自白により日本に共産聯盟を組織する陰謀があつた

この發覺した而して右共産聯盟の首腦人物は猪俣早大教授、佐野早大教授及び野阪前慶應教授の三名ださ

加藤首相は元帥に

内閣總理 大臣海軍大將加藤友三郎男

地精養軒で開催されることになつた此の發起人は内藤民治君外三百六十名で此の中には、内藤の代議士が四十八名博士と云ふ肩書のあるのが三十二名大學教授三十七名各新聞雜誌社主筆、實業家、軍人、書家、俳優凡ゆる階級の人を網羅し、主賓側はヨツフエ氏夫妻及一行に先日本朝した査證官で當

無線電話發明者逝く

無線電話の發明者として有名なる工學博士島湯右一氏六月六日死去した

地精養軒で開催されることになつた此の發起人は内藤民治君外三百六十名で此の中には、内藤の代議士が四十八名博士と云ふ肩書のあるのが三十二名大學教授三十七名各新聞雜誌社主筆、實業家、軍人、書家、俳優凡ゆる階級の人を網羅し、主賓側はヨツフエ氏夫妻及一行に先日本朝した査證官で當

許可されたので五月二十六日同會支部宛にて通知を發したが各會員から

の献上禮は約廿石の豫定

攝政宮ご海軍紀念日

五月廿七日は第十八回海軍記念日な

ので例年の通り築地水交社で盛大な

祝賀會を開催し總裁伏見宮博恭王殿

下を始め井上、東郷各元帥加藤首相

新橋名妓の踊等の餘興を催し六時四十分から食堂に入り日本側代表者の

十分から食堂に入り日本側代表者の

松旭齊天洋の水藝、喜多流の能樂、

新橋名妓の踊等の餘興を催し六時四十分から食堂に入り日本側代表者の

十分から食堂に入り日本側代表者の

新橋名妓の踊等の餘興を催し六時四十分から食堂に入り日本側代表者の

十分から食堂に入り日本側代表者の

北陸三縣に行啓あらせらる様風説事等の熱心なる諸願あつたので爲に農具並石油發動機、牛馬牽引發動機等安價にて堅牢なる品多量到着致

機等安價にて堅牢なる品多量到着致

候間用命伏して奉上候

尚詳細は左記へ御照會被下度日本文ならば時報社宛に願上候

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

年に

た

年になるだらう云々

北陸三縣に行啓あらせらる様風説事等の熱心なる諸願あつたので爲に農具並石油發動機、牛馬牽引發動機等安價にて堅牢なる品多量到着致

候間用命伏して奉上候

尚詳細は左記へ御照會被下度日本文ならば時報社宛に願上候

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

年に

た

年になるだらう云々

北陸三縣に行啓あらせらる様風説事等の熱心なる諸願あつたので爲に農具並石油發動機、牛馬牽引發動機等安價にて堅牢なる品多量到着致

候間用命伏して奉上候

尚詳細は左記へ御照會被下度日本文ならば時報社宛に願上候

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

年に

た

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

年に

た

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

年に

た

年になるだらう云々

根に御避暑あらせらる筈だしました十

忙に涉らせられ此夏は可成り永く箱

の事は絶対になくそして行啓は來

ばさる趣につき關屋内次官は攝

獨逸製並米國製アラード及附屬品

並品價廿九銁

クダ付價廿五銁

料送モジアナ線

一丁一針五百レース

ノロエスラ線五百レース

番

郵函一四〇番

モジアナ線五百レース

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

番

米國の南米探險家

マテ茶を大陸軍用にしたい

◇パラグアイの護謨ミ錫◇

◇十月にはアマゾナス探險◇

米國政府の命に依つて南米に於ける學者を伴つて來伯アマゾナス大河沿岸地方の富源を探險する豫定だと

氏は今迄長い間バラグアイ及びボリビアに於て學術

研究をした。氏が米國政府へ送つた報告書に依ると、同地方の錫は前代未聞の最もものだ相で、ボリビア

日本北極太買收は困難の模様

が見へ信すべき筋から的情報では不

調になり相たゞ、又官邊からの報に

ある(以上東京電報)

ホノル、來報に依れば日露間の北極太問題は解決した(倫敦電報)

から持參した各種の見本を分折した

結果は、その錫の純分

程度は全く完全で、何等邪魔見事な

木材や家畜類を見た、マテの研

究の結果、醫藥的主要成分を多量に

包有する事を確め、之を米國の軍隊に對し意見書を提出した、又バラグアイは約七月間バラグアイ國を跋涉し、エルバマテの密林の外に各

地へかけて燃料瓦斯脈が存在するの

が確められた、州政府技師は其後も

エス耕地から前記ペドランカ耕

三十年の徵役を宣告された之に對し

被告の辯護士等は控訴手續をした

地へかけて燃料瓦斯脈が存在するの

が確められた、州政府技師は其後も

さらつても水面に油が浮くと云ふ事

を確めた、又最近に至つてクリスタ

が九日終審となり陪審員全員一致で

州議會開院式

来る十四日例年の通り當州議會開院

式が行はれるので目下グアルウジャ

に避寒中のワシントン・ルイス州統領は歸聖同式に臨席後再びグアルウ

ジャへ赴く

パラナ州統領再選

州議員總選舉が八日に行はれ州統領及

ソシヤ氏が再選となつた

一日以來氣温は急激に下降し澄み返つた天に雨から来る凍つた風に思

おは寒こ寒

白い霜が降つた

在伯邦人野球團爭霸戦

十一日以來氣温は急激に下降し澄み返つた天に雨から来る凍つた風に思

おは寒こ寒

大石内藏之助 半井桃水

第一百廿八回

『あのお聴容れ下さりますかへ』
『良人に別れてまた一ヶ月も経かぬに、一人の命を死にやらねばならぬといふも、武士の種に生れた因縁の者が心を協して、お家に忠義を盡すと思へば、歎く處はさら／＼見えずばなるま』

『そんなら明日か明後日にも』
『とてもの事に唯尊から』
『エ、今宵直に出立とは』

『餘まりなお忙しい事』
『つい隣へでも行くやうに、左様容易くは参るまい。第一仕度が出来ぬ』

『あらう』
『その御心配には及びませぬ、路用の金子は武林氏から、送り届けて貢衛』

『父上の魏魂こめて、お渡しなされひました上、不足があれば何程でも大石殿から渡されます筈』

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』

『お語しなされますなや、ぞれ兄上がお耳に入れば、きつとお止めなされまえ、何にもいはず身を賣つて、お金は届けます程に、江戸へお疊足なま』

『年若い女子の身で、夜道は危い、母も左様ぢや、では此の儘で少しありにせよ、責めて髪でも梳付けて』

『ほんに苦界の勤めをするには、親判も要るとやら、母上お出下されば一度に話しの極りも付くこと』

『夫も左様ぢや、では此の儘で少しありにせよ、責めて髪でも梳付けて』

『母上、唯今歸りました』

『母子はハツと驚きながら、何氣ない體を粧うて、出ぬける事が出来ま

『マアいつの間に歸つたのかへ、夜食も了はず、無空腹かつたであらう』

『イヤ飯は外でよばれて來たさて母上、かねての本望漸く達する時節到來、急に江戸表へ、發足致さねば相成りませぬ』

『同志の人々は疾より京に、待受けまして、共に下向致したいと存じ

は、逸はやく立去つた。
母子兄弟此の世の別れ、右衛門七が後影は、墓に消え行くやうに見え

る、軒端に立た母子の者は相抱いて泣き倒れた。
父長助が白木の位牌に、涙手向けつやがて悄然と家へ入るこ、母は佛壇に燈籠を點け、娘は香を燒いて、

何事か頻に黙然するのであつた。
此の時門の戸がらりと引開け、膜)に顎粒の出来る眼病で、最初は

右衛門七嚴歸られましたか』と聲を高く音説ふ者は、家主の野間屋久兵

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』と涙ながら立

出るおひさ。
『私で御座る、久兵衛ちや』

さては又店販の催促か、折も折うみを解て、母と妹に示すのである。

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『エ、もう其の様な事、何の御心配に及びませう、母上と二人して、貨仕事に精出せば、生計に困りは致しませぬ』

『さうともく、私たちに一文でも残して置くには及ばぬ事、汝の支度見廻はす。

『さうともく、母上と二人して、貨仕事に精出せば、生計に困りは致しませぬ』

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

しないと大變な事になると思ます。

見見たならば同時に治療を加へて一家の内からトラホームを退治せねば、之が蔓延して後々手の付けやう

が後影は、墓に消え行くやうに見え

る、軒端に立た母子の者は相抱いて泣き倒れた。

父長助が白木の位牌に、涙手向けつやがて悄然と家へ入るこ、母は佛壇に燈籠を點け、娘は香を燒いて、

何事か頻に黙然するのであつた。

此の時門の戸がらりと引開け、膜)に顎粒の出来る眼病で、最初は

右衛門七嚴歸られましたか』と聲を高く音説ふ者は、家主の野間屋久兵

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』と涙ながら立

出るおひさ。
『私で御座る、久兵衛ちや』

さては又店販の催促か、折も折うみを解て、母と妹に示すのである。

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

しないと大變な事になると思ます。

見見たならば同時に治療を加へて一家の内からトラホームを退治せねば、之が蔓延して後々手の付けやう

が後影は、墓に消え行くやうに見え

る、軒端に立た母子の者は相抱いて泣き倒れた。

父長助が白木の位牌に、涙手向けつやがて悄然と家へ入るこ、母は佛壇に燈籠を點け、娘は香を燒いて、

何事か頻に黙然するのであつた。

此の時門の戸がらりと引開け、膜)に顎粒の出来る眼病で、最初は

右衛門七嚴歸られましたか』と聲を高く音説ふ者は、家主の野間屋久兵

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』と涙ながら立

出るおひさ。
『私で御座る、久兵衛ちや』

さては又店販の催促か、折も折うみを解て、母と妹に示すのである。

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

しないと大變な事になると思ます。

見見たならば同時に治療を加へて一家の内からトラホームを退治せねば、之が蔓延して後々手の付けやう

が後影は、墓に消え行くやうに見え

る、軒端に立た母子の者は相抱いて泣き倒れた。

父長助が白木の位牌に、涙手向けつやがて悄然と家へ入るこ、母は佛壇に燈籠を點け、娘は香を燒いて、

何事か頻に黙然するのであつた。

此の時門の戸がらりと引開け、膜)に顎粒の出来る眼病で、最初は

右衛門七嚴歸られましたか』と聲を高く音説ふ者は、家主の野間屋久兵

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』と涙ながら立

出るおひさ。
『私で御座る、久兵衛ちや』

さては又店販の催促か、折も折うみを解て、母と妹に示すのである。

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

しないと大變な事になると思ます。

見見たならば同時に治療を加へて一家の内からトラホームを退治せねば、之が蔓延して後々手の付けやう

が後影は、墓に消え行くやうに見え

る、軒端に立た母子の者は相抱いて泣き倒れた。

父長助が白木の位牌に、涙手向けつやがて悄然と家へ入るこ、母は佛壇に燈籠を點け、娘は香を燒いて、

何事か頻に黙然するのであつた。

此の時門の戸がらりと引開け、膜)に顎粒の出来る眼病で、最初は

右衛門七嚴歸られましたか』と聲を高く音説ふ者は、家主の野間屋久兵

『お氣づかひなされまするな、唯今お留守の間に、ちやつと行つて参ります』と涙ながら立

出るおひさ。
『私で御座る、久兵衛ちや』

さては又店販の催促か、折も折うみを解て、母と妹に示すのである。

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』

『是はく、大家様で御座りますから、良人がなくなりました前後、仕事に手が付かず、ツイ店販も二月程滞ります。もう是から

『江戸へ立ちましたが、心急げばお暇足にやつて來たのちや御座らぬぞへは母子の者が、夜の日も寝ずに稼ぎますや』